

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を基に、その人らしく生活出来るように支援し、ゆとりを持って尊敬の念を忘れず接している		自分のしたい事を自由にして頂いている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	【入居者第一】を念頭にいれ日々の介護に取り組んでいる		初心忘れずをモットーにしている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居契約時【入居者第一】の理念を伝えている		推進会議委員の方には理念を基に取り組んでいる事を理解して頂いている
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣組の魚屋さんが配達して下さり気軽に声かけて頂いている。		交流を広げて行きたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動(空き缶拾い)や地元の中学校の運動会・保育園児との交流に参加している		年2回の地元中学の体験学習に協力している
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	系列の有料老人施設で開催される、入居者対抗ボウリング大会、年1回の秋祭りの出し物に参加している		全員参加出来るよう取り組んでいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして、改善出来る所は取り組んでいる		話し合いを行っている
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員の方、民生委員の方の意見を参考にしている		家族の方も市職員の方に気軽に相談されている
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長・部長が市役所に行かれ情報交換を行い報告されている		福祉担当の職員の方と気軽に相談出来ている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1名成年後見人を利用されている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	【入居者第一】を念頭にいれ虐待をしない介護を行っている		職員の態度・言葉使いに気をつけている
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、疑問点があればその都度説明を行っている		家族は理解されても、ご本人が理解されていない事もある

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・不満・苦情を職員に通達している		ミーティングを行い話し合いを行っている
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	三ヶ月に一回の期間にてケアプラン、身体状況の報告を行い、ホーム便りを作成の上二ヶ月に一回ご家族に送付している。 諸雑費等の預かり金の残高、証票類については、毎月のホームの状況報告、利用料請求書の送付と同時にご家族へ同封している。		途中での健康状態の変化をその都度家族に報告している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等等で、意見交換を行い問題に取り組んでいます。		ミーティングを行い話し合いをおこなっている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、意見を聞き反映させている。		その日に報告する時もある。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院受診、行事、緊急時等職員の確保出来るよう勤務体制を整えている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐ為異動等は出来るだけしないように要望している。又、離職を防ぐ為に常に話し合いを行っている。		系列施設も落ち着き異動も今はなくなっている。
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているようにしている	性別、年齢よりも働く姿勢、能力を発揮出来るようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常生活の中で入居者第一を念頭に入れお世話をさせていただいています。		入居者からの言葉に対して「ちょっと待ってね」と言わずに、直ぐ対応するよう話し合っている。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は与えられているが、人数等の関係で参加できないことが多い。		勤務調整を行い、出来るだけ参加し勉強して頂くようにします。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人数等の関係で参加できなかった。		出来る限り、研修の機会を作り職員のレベルアップへと繋げたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者からは年に一度の忘年会、職員の月の誕生プレゼント、職員間では時折折食事をやっている。		食事会、カラオケ等で発散している。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	身体状況や得意分野が発揮できるよう取り組んでいる。		楽しくゆとりを持って介護できるよう心がけている。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日ごろより、共感受容を常に心がけています。		日々の生活の中で、変化に気づき対応を行う。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や予約に来られた際十分説明し、お話を聞くように努めている。		本人さん、家族の方に納得が行かれるまで説明をします。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に今必要としている困ったことを第一に支援します。		出来ることは対応している。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をして頂いたり、ご入居の際にはご家族も一緒に食事をして頂いたり等、ご家族とも相談の上、徐々に慣れて頂くよう努めている。		ホームの雰囲気になじめないまで、本人の意思を尊重している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話をしてもらったり等いろんなことを教えて頂いたり、ともに楽しく笑い泣いたりすることで関係づくりをします。		人生の先輩として尊敬の念を忘れず、いつも平常心で皆様のお世話をさせていただきます。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族の連絡を密にし、ともに支え合う信頼関係の構築に努めるとともに、利用料の支払いは振込みではなく直接持参して頂く形をとって一回でも多く来所して頂くよう努めている。		ご本人、ご家族の気持ちを第一に考えている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との面談、情報交換を密にし、意見交換の場をより多く取れるように努めている。		居室でゆっくり過ごしていただいている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域よりの入居者の方が多いので、買い物に同行してもらったり、病院受診、ドライブ際は少し回り道をして町中の様子をご覧頂くように努めています。		入所も長くなると、知人の訪問もなくなっている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の立場を尊重しながら、利用者間の関わりについて助言、支援し、声掛けを密にして孤立することがないように努めている。		本人の出来ることはしていただき、終わった後は「ありがとう、助かった。」と職員の気持ちを言葉でしますよう職員一同心がいます。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、他の施設のため退去されて方々たちにはお見舞いに出向いたり、ご家族からの相談等についても快く応じるよう職員一同努めています。		先日、ご家族より特養移動の話があり退去された方のところに、休日を利用して面会に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>何事も入居者第一ということを念頭に持ち、個人の意向を大切にした介護に努めます。</p>	<p>自室は本人さんの好きなように使用して頂いています。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>居室についても入居者の好みにより自由に装飾していただき、今までの生活との違和感を出来るだけ感じられないように工夫しています。</p>	<p>今までの生活の場と同じような環境づくりを支援します。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の得意分野やその能力を把握した上で、本人さんの出来ることをして頂くようにします。</p>	<p>庭の手入れ、テーブル拭き等出来ることをして頂いています。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランを見直す際には、ご家族とも綿密に話し合いのうえ意向を組み入れた計画を立てるよう努めています。</p>	<p>ケアプラン作成後、ご家族の方に提示し了解を得ています。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月に一度ケアプランを見直すことを原則としているが、変化が生じた際には即見直しのうえ作成するように努めています。</p>	<p>職員と状態変化を検討するとともに、家族面会時に状態変化を説明し見直しをします。</p>
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>身体状況に変化が生じた際には見直しを行い、介護日誌、記録、申し送りノートとうにて情報はいつでも職員全員が共有できるようにしています。</p>	<p>職員全員が共有することで入居者に対しての介護実践の統一が出来る。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診には職員が同行するとともに、入院された時には洗濯物等は当ホームにて洗濯の上入院先までお届けするようにしています。同系列施設よりPTのリハビリを実施しています。		PTのリハビリ実施にて機能維持、継続できます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	紙粘土教室などボランティアを受け入れており、又、お正月には近隣の中学校、高校、専門学校等から実習生を受け入れています。		紙粘土は入居者の方には作品完成した時は大変喜ばれています。居室にて飾られています。又、実習生等が来られた時は曾孫みたいなようで大変喜ばれています。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば、同系列の施設の紹介も含めて担当のケアマネジャーとも話し合うよう努めています。		他のサービスを利用までは行っていません。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	社会福祉協議会等と情報交換をしたりしている。		二ヶ月に一回、運営推進会議にて情報交換を行っています。又施設長、部長が必要性に応じて市役所に出向かれています。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際にはかかりつけ医と綿密に話し合い、又、ご家族の同意のうえで在宅支援診療を受け入れ、定期的に往診してもらっています。		ご家族の方は主治医の往診されることで安心されています。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医よりの往診の際には常に入居者の状況について情報交換のうえ、何かあればすぐ相談をしています。		早期発見、早期治療に努めています。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護師や主治医の看護師とも常に情報交換し相談をしています。		早期発見、早期治療に努めています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際には、頻回に病院に出向き、担当医師や看護師と情報交換を行っています。		時間の許す限り面会に行き、看護師等と情報交換を行っています。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ぎりぎりまでホームで看れる限りは、ご本人、ご家族の意思に沿うようにと医師、ご家族と話し合っている。		ご家族様はホームで看取りを希望されている。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の状態、時間帯により医師の指示に従う。		ホームでの看取りは医療設備等の関係上困難と思う。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護面、環境面でホームでの生活は本人さんにとって負担状態であれば、ご家族及び本人に関わる関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っています。		別の居所へ移り住まれた後も、職員が面会に行ったりして交流を図っています。
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないような声掛けに努めています。		入居者より苦情等があった時は、即検討し本人に注意をします。今のところはありませぬ。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が話しやすい雰囲気を作り、何をされたいのかを常にお聞きするように努めている。		職員はどんな忙しい時でもゆとりを持ち、人を思う心と人生の先輩の皆様への尊敬の念を忘れず平常心でお世話をさせていただきます。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを支えるようにお世話します。		レクリエーション、手作業等、自由に本人の意思で参加して頂くようにしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出張美容室がホームに来られています。		近隣の美容室の方で入居者と顔なじみの方が多く雑談が弾んでいます。継続して行きたいです。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々が出来ることは一緒にしたり、食事は同じものを一緒に会話しながらとるようにしています。		入居者の出来ることをして頂いています。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物と一緒に出かけたり、又、出かけない人には何かおやつが要らないか尋ね好きなものを一人ひとりの状況に合わせて楽しんでいただけるようにしています。		糖尿病等の方はそれなりに調整をして頂くため声掛けをしています。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	車椅子の方もトイレ誘導して、快適に排泄して頂くよう努めています。		トイレ内では無理な方はプライバシー保護をしてポータブルトイレ介助を行います。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調を考慮し、入浴時間や順番、回数等を決めています。		自分で入れる方は、希望があればシャワー浴を提供しています。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室にて、ご自由に休息をとっていただくようにしている。		自分で行動できない方には声かけし希望に沿う様支援しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族との外出や自分の好きな貼り絵、俳句、習字等をそれぞれ楽しませている。		気分転換の庭の散歩、トランプ等を行い楽しませている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能なお金方には所持していただき、欲しいものを購入出来るようにしています。		二名の方は自分でお金を持たれたいものは訴えられたり、一緒に買い物に出かけたりしている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園の花見、系列施設のイベントに参加している。		施設者にて送迎を行っている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、近隣中学校の運動会、地域のお祭り等には出来るだけ見学する機会を作り、ご家族にも一緒にいただけるように案内している。		直方のチュウリップ祭り、大将陣へ桜見学兼ドライブ。みんなで出来るだけ普段いけないところへいけるように機会を作りたいと考えていますが車酔いもあり困難になっている。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ゆっくり電話が出来るように対応している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室にて気兼ねなく談話が楽しめるようにしている。		お茶をお出しして、ゆっくりと気兼ねなくお話を頂くようにしています。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解のもと介護を行っています。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関、居室はいつも開放しています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が居室に入室する際には必ずノックをし、声掛けや見守りしながら様子観察をしています。夜間時には毎時巡視を行っています。		日ごろより、居場所は確認しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要性が無く危険な物についてはご家族と相談の上持って帰った頂くようにする。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議やその都度情報交換のうえ事故防止の対応に努めている。		内服薬の確認、転倒、誤嚥に気配りを行っている。火災訓練は年2回実施されている。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には実施していないが、日常より急変時の対応については話し合っている。AEDを設置し全員講習を羽化している。		応急手当、感染予防のための簡易マニュアルを職員の日に入るところに置いている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署立会いのもと避難訓練実施し、通報装置の説明も訓練と同時に実施している。		裏の職員社宅より協力して頂ける。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	常に現状報告を行い、リスクに対応できるように努めている。		同じあやまちは二度起こさないよう職員全員で話し合う。
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、表情の変化など気付いた際には速やかに主治医に連絡を行い指示を仰ぐようにしています。		往診時、一人ひとりの体調の変化異変に気付いた時は主治医に報告を行う。緊急時は電話連絡を行い指示を仰ぎます。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認のもと手渡しのできるよう服用して頂く、又、自分で服用できない時は確認のもとで介助する。		職員も一人ひとりの名前を確認し手渡す。又は口に入れてやるときは必ず本人の服用する薬かを確認するように話しています。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事のメニューに食物繊維を多く取り入れたたり、水分補給や適度な運動に行うようにしている。		緩下剤と併用のうえ便秘予防に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力困難な方には、職員が口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		3毎食後に歯磨き、夕食後は毎日義歯洗浄を行っています。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった食事量や水分量を把握し、栄養バランスを考えるよう努めています。		病状に応じた水分量のチェックが必要時は指示に基で行っている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年職員、入居者全員がおこなっており、うがい、手洗いを励行し、病院受診の際にはマスクを装着している。		感染予防について支援医院の先生より系列施設の講習会に出席している。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板、布きん等の消毒を行い、食器類、なべ等は一回一回乾燥機に入れている。食材の管理にも気を配っている。		必ず食材は日付確認をおこなっている。季節によって生ものは避けるようにしている。
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は常時開放し、花を植えたり畑を作ったりして近隣の方と交流が出来るようにしている。		入居者の方とジャガイモを植えたり、芋掘りしたり楽しませている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、Dルームテーブルには、季節の花が飾られていて、食事時はCDを流している。		季節の花を喜んで見られている。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームで会話されたり、居室でくつろいだりされている。		自由に過ごされている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具、テレビ等は本人やご家族と十分に相談の上設置していただいております、ご家族の写真や作品なども多く飾られています。		自分の物で安心がある。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中はなるべく窓を開け風通しを良くし、空調については温度計、湿度計を設置し、こまめにチェックの上調整するよう配慮している。		居室の空気の入れ替え、温度調節の確認を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の段差を少なくし、車椅子でどこへでも移動できるようにしており、廊下等には手摺を設置している。		障害物がないように気をつけている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が起こる前に声掛けや見守りをして対応している。		職員と状態変化を検討するとともに、家族面会時に状態変化を説明し見直しをします。協力しながら行っている。
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには物干し竿を設置しご自由に使っていただき、庭には季節を感じる花々を植えたり、収穫のある作物を植えたり、敷地内の銀杏の実を採ったりして楽しんでいただいております。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方々に「このホームで生活して良かった。」「長生きしてよかった。」と心から思ってもらえるホームを目指します。